

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

活動レポート2017

ESDはEducation for Sustainable Development の頭文字。
持続可能な開発のための教育と訳され
全国各地の学校で、地域で、取り組まれています。



平成29年度環境省請負業務

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター 活動レポート2017

発行日 平成30年(2018年)3月
制作 ESD活動支援センター



はじめに

～ ESD 推進ネットワークの本格的な稼働に向けて ～

日本の提案により開始された「国連ESDの10年」が2014年に終了したのち、世界の国々は、ESDの重要性に鑑み2015年からESDの第2ステージを開始することとし、2014年12月に「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の世界的な推進に合意しました。我が国は、ESDを推進する中核的な国として、世界のESDをリードしていくことが期待されています。

このため、我が国は、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わるマルチステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進することを目的としてESD推進ネットワークの構築に取り組みました。ESD推進ネットワークは、我が国のESDの質的向上、量的拡大を図ることにより、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、行動が、学校教育や学び・人づくり・地域づくりのあらゆる場において主流化していくことを目指します。

ESD推進ネットワークは、ネットワークの地域におけるESD活動の支援窓口となる「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」、広域的なハブ機能を果たすため、都道府県の区域を越えた広域ブロックにおけるESD活動の支援や地域ESD拠点と協働・連携した活動等を行う「地方ESD活動支援センター(地方センター)」、ESD推進ネットワークの全国的なハブ機能を果たす「ESD活動支援センター(全国センター)」等により構成されます。

2016年4月に文部科学省と環境省による官民協働の仕組みとして全国センターがスタートしました。さらに、2017年7～9月にかけて全国8ブロックで地方センターが開設され、同年11月からは地域ESD拠点の登録も開始されました。全国センターは、地方センター・地域ESD拠点と連携して、地域レベル、広域レベル、全国レベルといった重層的なネットワークを形成し、地域における情報共有と学び合い、連携・協働を進め、2030年に持続可能な開発目標(SDGs)が達成されている社会を目指し、ESD推進ネットワークを推進していきます。全国センターは特に、一つのブロックを超えた広域的なつながりの構築、ESDに関係する様々な全国組織本部との協力によるそれらの地方組織へのESD普及、国際分野の情報の収集発信に力を入れてまいります。

本報告書は、2年目を迎えた全国センターの、過去1年間の活動記録を取りまとめたものです。この1年間で、ESD推進ネットワークの基本的な仕組みが構築され、更なる飛躍に向けた準備が進められました。今後、皆様のお力添えにより、一層の活動を展開してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

ESD活動支援センター
センター長 阿部 治

目次

ESD推進ネットワーク形成の進展	1	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017	12
ESD推進ネットワークとESD活動支援センター	2	国際フォーラム	21
平成29年度の活動：総括	4	相談窓口	22
ESD推進ネットワークの具体化に向けた取組	6	催事を活用して情報発信	23
ウェブサイト発信中	10	後援事業・協力事業、メディア掲載	24

本レポートの内容は、原則平成30年2月末現在の情報に基づいています。

ESD推進ネットワーク形成の進展

平成29年(2017年)11月

学校現場・社会教育の現場で、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいる様々な主体によるESDを支援・推進する役割を担う組織・団体を「ESD推進ネットワーク」における「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」とし、登録が開始される。



平成29年(2017年)7月～9月

文部科学省と環境省により、ESD推進ネットワークの広域的なハブとしての機能を担う「地方ESD活動支援センター(地方センター)」が、全国8ブロックごとに開設される。



平成28年(2016年)4月

文部科学省と環境省により、ESD推進ネットワークの全国的なハブとしての機能を担う「ESD活動支援センター(全国センター)」が、開設される。



平成28年(2016年)3月

我が国における「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画(ESD国内実施計画)(持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議*決定)に全国的なESD支援のためのネットワーク機能の体制整備と「ESD活動支援センター(全国・地方)」の整備・効果的な運用が、政策的支援と地域コミュニティ関連の柱として記載される。



平成27年(2015年)9月

国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択される。



平成26年(2014年)11月

持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議で、「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の後継プログラムである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の正式開始が発表される。



平成17年(2005年)～平成26年(2014年)

「国連ESDの10年」、世界各国で実施。

*持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議:ESDにかかわる施策の実施について、関係行政機関相互間の密接な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るために開催。平成30年2月現在、以下が参画:文部科学省、環境省、内閣官房、内閣府、消費者庁、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、法務省、厚生労働省

ESD推進ネットワークとESD活動支援センター

ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様な主体が、分野横断的に、協働・連携してESDを推進することを目的としています。ESDを広げ、深めることを通じて、地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs達成のための意識・行動変革を進めます。



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

地方ESD活動支援センター(地方センター)のパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することでESD推進ネットワークの中で中核的な役割を果たす、地域におけるESD活動の支援窓口です。

先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、ESD活動を支援している組織・団体に地域ESD拠点として登録していただき、学校教育や社会教育の現場で、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む様々な主体の活動を支援・推進していただくことが期待されています。

ESD活動支援企画運営委員会

ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向の議論、地域の実情を踏まえた総合的なESD活動支援方策の検討、ESD活動支援センターへの指導・助言を行います。

ESD活動支援センター(全国センター)

ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行う組織です。地域ESD拠点、地方センターやESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。

学校、地域、職場などでESDに取り組んでいる多様な実践主体(ESD活動の現場)

ESDに取り組もうとしている多様な主体(潜在的な活動主体)

ニーズ・成果共有
ESDを広めるため、深めるための働きかけ・支援

多数・多様・地域ESD活動(地域ESD拠点)
重層的な活動推進拠点

ニーズ・成果共有
連携・支援

ESD活動支援センター

地方センター(全国8か所) + 全国センター

協力 団体

地方ESD活動支援センター(地方センター)

全国センターや地方自治体、地域ESD拠点等との連携のもとに、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。

- ①ESD活動を支援する情報共有機能
- ②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- ③ESD活動のネットワーク形成機能
- ④人材育成機能、等

協力組織・団体

ESD推進に取り組む全国レベルのネットワーク組織・団体です。

SDGs:持続可能な開発目標



「持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて～学校等でESDを実践されている皆様へのメッセージ～」(平成29年9月 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会)にある図を基に作成しました。 <http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/message.html>

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この中で示されたのが、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。ESDは目標4の第7項目で取り上げられ、SDGsのすべての目標を達成するためには、ESDを踏まえた人材育成が必要であると考えられています。

●全国センターの機能と役割

4つのはたらき

1 情報の収集・発信

研修、教材、アワード、政策、助成金等の情報を、ウェブサイト、SNS等で提供しています。また、メールや電話などによる相談にも応じます。

2 ESD支援体制の整備

地方センターと連携し、地域の実践者のニーズに沿った支援プログラムの検討を行います。また、地域ESD拠点の形成・活動を支援します。

3 ネットワーク形成と学びあいの促進

ネットワークを育み、互いに学び合う場として「全国フォーラム」などを開催します。

4 人材の育成

実践者やコーディネーター、指導者の育成と、活躍の場づくりに取り組みます。また、ユースのキャパシティ・ビルディングを支援します。

3つのつなぐ

1 環境・開発・人権・平和・防災・消費・文化などの多様なテーマをつなぎます。

2 ESDを推進・支援する人・組織・プログラムなどを地域をこえてつなぎます。

3 国連機関や海外のESD先進地域の動きなど国際的な情報をつなぎます。

ESD推進ネットワークの稼働が開始した一年 平成29年度の活動：総括

平成29年度は、全国8ブロックに地方ESD活動支援センター(地方センター)が開設され、地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)の登録制度が開始されたことから、「ESD推進ネットワークの構築に向けて」(平成28年3月、ESD活動支援企画運営準備委員会、文部科学省、環境省)に示されたネットワークの体制が整い、ESD推進ネットワークの稼働が開始した年となりました。ESD活動支援センター(全国センター)の平成29年度の実績の概要を、全国センターが果たすべき4つの機能に沿って振り返ります。

1. 情報の収集・発信

【平成31年度をめどとした成果目標】

- ESD活動支援センター(全国・地方)が収集、整理、蓄積、共有する情報がESDを深めるために(質的向上)、また広めるために(量的拡大)、有用なものになっている。

【平成29年度の実績】

●平成29年度版リーフレットの作成

地方センターの情報を盛り込みました。また、昨年度の全国フォーラムでの議論を反映して、ESD推進ネットワークでは、持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた意識・行動変革を進めることを明確にしました。

●地方センターウェブサイト構築および運用の基盤作り

全国センターは、サーバーなど全地方センターのウェブサイト構築および運用の基盤を作り、5つの地方センターウェブサイトの更新作業を担当することになりました。ESD関連情報を、全国と地方のESD活動支援センターから、重層的に発信できる仕組みができました。

●全国センターウェブサイトおよびSNS

新しいコンテンツとして「地方センター」「地域ESD拠点」を作成しました。FacebookとTwitterを活用し、情報発信力の強化に努めました。



平成29年度版リーフレット

2. ESD支援体制の整備

【平成31年度をめどとした成果目標】

- ESD活動支援企画運営委員会が、総合的なESD活動支援方策の検討やその実現に向けた全国センターへの指導・助言を行うための体制が整備されている。

- ESDを推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての全国センター・地方センターの整備が進み、ESD活動に対する支援体制が機能している。
- 地域ESD拠点の創出、形成、強化が進んでいる。

【平成29年度の実績】

●ESD活動支援企画運営委員会

ESD活動支援企画運営委員会を2回開催し、地域ESD拠点について、また、「ESD推進ネットワークの達成目標等」等についての検討を通じたESD推進ネットワークの方向性についての議論や全国センター事業への指導・助言を得ました。

●ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会

3回のESD活動支援センター(全国・地方)連絡会開催と年間を通じた意見交換を通じて、ESD推進ネットワークのためにESD活動支援センター(全国・地方)が行うべきことの方角性についての意見交換を行い、ESD関係者が実施する事業の後援やロゴマーク使用承認などの規程を定め実務体制を整えました。

●地域ESD拠点の創出・形成と登録の仕組み

地域ESD拠点についての考え方を整理し、資料にまとめたほか、地域ESD拠点登録にあたっての仕組みを整え、11月に登録手続きを開始しました。

3. ネットワークの形成と学び合いの促進

【平成31年度をめどとした成果目標】

- 多様な分野でESDの認知度が向上し、また理解が進み、多様なステークホルダーの間で経験の共有、ESD推進の協働・連携の関係性が形成・促進されるような学びの場が持たれている。
- 地域の様々な課題への取組や政策にESDの視点と手法が取り入れられていると同時に、多様な学びの場とそれを支える政策にESDの視点と手法が組み込まれ学びの質を高めている。

【平成29年度の実績】

●全国フォーラム2017の開催

「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017:地域におけるESDのさらなる展開に向けて」(全国フォーラム)を、文部科学省、環境省と共に、立教大学ESD研究所の共催を得て開催し、11月24日・25日両日でのべ260名の参加を得ました。全国フォーラムでは、地方センターの役割、ESD関係省庁の施策紹介とESD推進ネットワークへの期待の共有、地域でのESD実践事例を基にした地域ESD拠点の可能性など、ネットワークの更なる展開に向けての方策が議論されました。全国レベルでESDを推進する組織・団体の活動紹介セッションも持ちました。

4. 人材の育成

【平成31年度をめどとした成果目標】

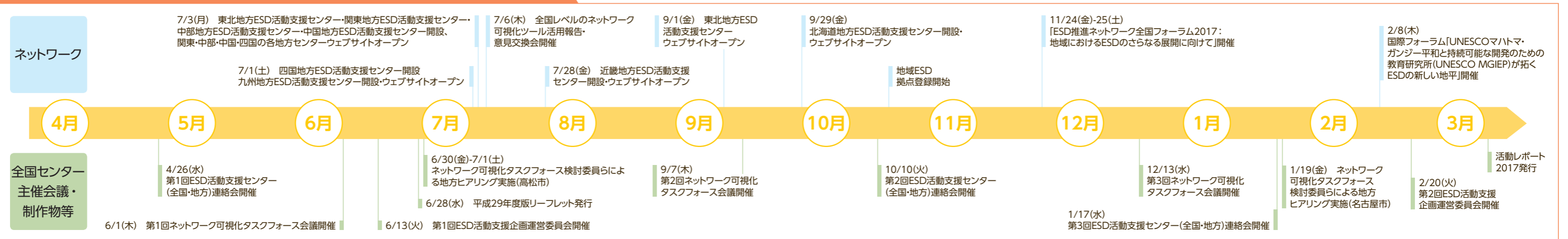
- 既存の研修等を活用し、多様な場でESD研修が実施されている。
- 多様な分野・セクターにESDを推進する多世代の人材が育成され、活動の場を広げている。

【平成29年度の実績】

●研修等での連携

日本ジオパークネットワークは、ESDやSDGsの理解の促進と活動の普及を行う教育活動の展開を今年度の重点事業の一つとして位置づけました。全国センターは、「第8回日本ジオパークネットワーク全国大会2017(男鹿半島・大潟大会)」を後援するとともに、そこで行われた「ジオパークにおける持続可能な社会のための教育」分科会に参加。また、ジオパーク活動とESDについて学ぶ「第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会」の企画に参画し、講師を派遣しました。全国センター・地方センターは、様々な分野での研修の企画や実施に協力し、それらを集約、分析して、ESD推進ネットワークにおける人材育成の目指すべき姿について検討し、活動していきます。

ESD活動支援センター 平成29年度 活動カレンダー



ESD推進ネットワークの 具体化に向けた取組

地方センターの開設

環境省と文部科学省によって、平成29年7月から9月にかけて、全国8ブロックごとにESD推進ネットワークの広域的なハブとしての機能を担う地方センターが、北海道(札幌)、東北(仙台)、関東(東京)、中部(名古屋)、近畿(大阪)、中国(広島)、四国(高松)及び九州(熊本)に開設されました。全国センターはこれら地方センターと年3回の連絡会の開催の他、各種の連絡調整を年間を通じて行っています。

地域ESD拠点の登録開始

地域ESD拠点についての考え方を整理し、事務手続きの手順を整えて、全国センター・地方センター連携のもと、平成29年11月に地域ESD拠点の登録をスタートさせました。地域で先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、地域でESD活動を支援している組織・団体などの協力を得て、数多くの多様な地域ESD拠点が、重層的に形成され、ESD活動支援センター(全国・地方)、他の地域ESD拠点との連携・協力によって、ESDを広め、深めていくことが期待されています。平成30年2月末現在25の組織・団体が地域ESD拠点として登録を完了しました。



地域ESD拠点共通ロゴマーク

成果

地方センターの開設、地域ESD拠点の登録開始により、地域における取組を核とする、持続可能な社会の実現をめざす学びと行動のネットワークが稼働し始めた。

今後に向けて

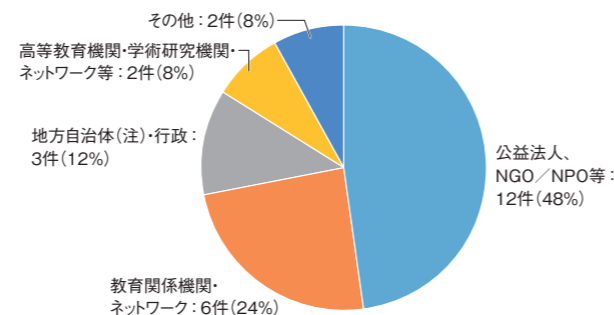
地域ESD拠点、地方センター、全国センターが、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)やSDGs達成に向けた意識変革、行動変革のために何をすべきか、どのように連携や支援を行うか、それらをどのように可視化していくか、戦略的な取り組みが求められている。

地域ESD拠点の登録状況

平成29年11月に地域ESD拠点の登録が開始されています。図示したものは、平成30年2月末現在のものです。

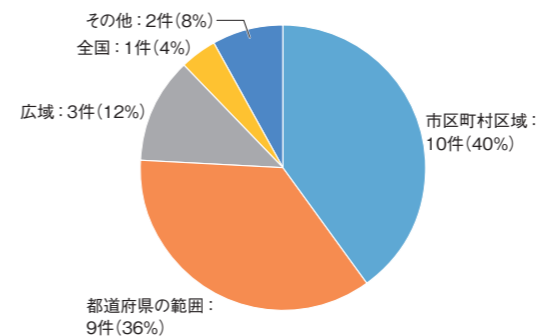


【地域ESD拠点の組織・団体種別】



(注) 教育委員会は「教育関係機関・ネットワーク」に含む。

【地域ESD拠点の活動地域・範囲】



全国センターウェブサイト
「地方センター」
<http://esdcenter.jp/regional/>
「地域ESD拠点」
<http://esdcenter.jp/kyoten/>

地方センター・全国センター連絡先

- 1 **北海道地方 ESD活動支援センター**
住所 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西5-11 大五ビル7階
TEL 011(596)0921
E-mail inf@hokkaido-esdcenter.jp
担当都道府県 北海道
- 2 **東北地方 ESD活動支援センター**
住所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1階
TEL 022(393)9615
E-mail info@tohoku-esdcenter.jp
担当都道府県 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 3 **関東地方 ESD活動支援センター**
住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山地下1階
TEL 03(6427)7975
E-mail kanto@kanto-esdcenter.jp
担当都道府県 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡
- 4 **中部地方 ESD活動支援センター**
住所 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4階
TEL 052(218)9073
E-mail office@chubuesdcenter.jp
担当都道府県 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重
- 5 **近畿地方 ESD活動支援センター**
住所 〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMM5階
TEL 06(6948)5866
E-mail office@kinki-esdcenter.jp
担当都道府県 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 6 **中国地方 ESD活動支援センター**
住所 〒730-0011 広島県広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル5階
TEL 082(555)2278
E-mail cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
担当都道府県 鳥取、島根、岡山、広島、山口
- 7 **四国地方 ESD活動支援センター**
住所 〒760-0023 香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館3階
TEL 087(823)7181
E-mail info@shikoku-esdcenter.jp
担当都道府県 徳島、香川、愛媛、高知
- 8 **九州地方 ESD活動支援センター**
住所 〒860-0806 熊本県熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2階
TEL 096(223)7422
E-mail contact@kyushu-esdcenter.jp
担当都道府県 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
- 9 **ESD活動支援センター(全国センター)**
住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山地下1階
TEL 03(6427)9112
E-mail contact@esdcenter.jp

関連行事の後援を通じて 協力・連携を強化する

ESD活動支援センターは、ESD関係組織・団体の催事を後援することで、ESDおよびESD活動支援センターの認知度を高める機会とするとともに、それら催事に関する広報に協力します。また、新しい主体との連携のきっかけづくりや強化のための機会ととらえ、平成29年11月からは、全国センターと地方センターの後援名義使用承認手続きの一元化を行いました。ESD関連組織・団体から積極的に後援の機会をいただいた結果、47の催事に対して全国センター、地方センターでのべ56件の後援名義使用承認をすることができました。(平成30年2月末現在、p24-28)

後援した催事には、CSRやエシカルクッキングなど、昨年度はなかったテーマが加わり、それら催事の主催者も、より多様になりました。

たとえば、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の民間ユネスコ活動中期計画では、ESDの推進およびESD活動支援センターとの連携が位置づけられています。この動きと連動して、全国センターでは「第73回日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台」を後援するとともに、地域のユネスコ協会が開催する研修会等を後援し、研修会に講師を派遣しました。また一方では、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が開催する各ブロック・ユネスコ活動研究会において、ESD活動支援センター(全国・地方)等の周知にご協力をいただきました。

他の例としては、平成29年4月に設立された日本ESD学会やSDGsの普及と推進という共通の目的を共有する独立行政法人国際協力機構(JICA)地球ひろばの催事を後援し、職員を派遣したことも挙げられます。

文部科学省・環境省による ESD推進関係者への周知・協力依頼

地方センター開設を控えたタイミングで、以下の文書が発出されました。

事務連絡文書
「地方ESD活動支援センターの活動への協力について
(依頼)」

日付：平成29年7月7日
発信元：文部科学省国際統括官付
宛先：各都道府県教育委員会指導事務主管課・各指定都市教育委員会指導事務主管課・各都道府県私立学校事務主管課・附属小・中学校を置く各国立大学法人附属学校事務担当課・独立行政法人国立青少年教育振興機構

発信元：環境省総合環境政策局環境教育推進室
宛先：各都道府県・政令指定都市・中核市環境教育担当課

全国的にESDを推進する組織・団体との 連携・協力の「可視化」

全国センターでは、ESD推進ネットワークの活性化のために、全国を対象としてESDを推進する組織・団体との関係構築を進めています。

平成28年度に、以下の11の組織・団体の協力を得て、全国センターが進める、多様な主体との連携構築の可視化を試みたものを、3種の「可視化ツール」でまとめる試行を行いました。改善を加えながら、全国を対象としてESDを推進する組織・団体との関係構築の経年的な変化を記録していきます。

平成28年度全国レベルのネットワーク可視化の 試行にご協力いただいた組織・団体

- ・一般財団法人持続性推進機構
- ・一般財団法人経済広報センター
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・公益社団法人全国公民館連合会
- ・公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
- ・全国小中学校環境教育研究会
- ・NPO法人日本持続発展教育(ESD)推進フォーラム
- ・認定NPO法人日本ボランティア・コーディネーター協会(JVCA)
- ・一般社団法人日本環境教育学会(実施時は日本環境教育学会)
- ・NPO法人開発教育協会(DEAR)
- ・公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)

(名称は平成30年2月末現在)

●ネットワーク可視化タスクフォースメンバー

〈検討委員〉

佐藤真久** 東京都市大学大学院環境情報学研究所教授
鈴木佑司* 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長

〈ESD活動支援センター〉

鈴木克徳 ESD活動支援センター副センター長、
金沢大学教授
柴尾智子 ESD活動支援センター次長

(敬称略、**座長、*副座長)

ESD活動支援企画運営委員会委員の開催

ESD活動支援企画運営委員会(平成29年6月と平成30年2月の2回開催)では、ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向を議論するとともに、ESD活動支援センター(全国センター)の事業計画及び事業報告、次年度の事業計画案について指導・助言をいただいています。

●ESD活動支援企画運営委員会委員リスト

上野 浩文	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構(近畿環境パートナーシップオフィス請負団体)代表理事/近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)事業統括
及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス機構主幹研究員/日本ユネスコ国内委員会委員/ESD円卓会議議長
川田 カ*	岡山大学(ASPUnivNet運営委員会元担当大学)大学院教育学研究科教授
久保田 学	公益財団法人北海道環境財団(北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)請負団体)事務局次長
佐桑 徹	一般財団法人経済広報センター 常務理事兼国内広報部長
重 政子	NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)共同代表理事
新海 洋子	NPO法人ボランティアネイパーズ(中部環境パートナーシップオフィス請負団体)/中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)チーフプロデューサー
進藤 由美	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)教育協力部兼人物交流部長
鈴木 佑司*	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長
関 正雄**	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室シニア・アドバイザー 明治大学経営学部特任准教授
辰野 まどか	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)代表理事、東洋大学食環境科学研究科客員教授
常川 真由美	NPO法人えひめグローバルネットワーク(四国環境パートナーシップオフィス請負団体)/四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)所長
仁科 俊彦	岡山市市民協働局ESD推進課課長
増田 直広	公益財団キープ協会環境教育事業部主席研究員/山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター館長
森下 研	一般財団法人持続性推進機構専務理事/エコアクション21中央事務局/環境人材育成コンソーシアム事務局

(敬称略、50音順、肩書は平成30年2月末現在、**委員長、*副委員長)

ユース × 情報発信 #ESDワカモノ

「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の5つの優先行動分野の一つに「ユース(ESDへの若者の参加の支援)」があります。ESD活動支援センターは、ユースとともにESDを推進していく仕組みとして、平成28年度より「若者世代によるESD情報発信プロジェクト」を開始しました。平成29年度は、8名の社会人ユースESDレポーターがESDに関する様々な活動にじかに触れ、生の声を聴き、ワカモノ目線でESDを切り取り、レポートしました。作成されたレポートは、ESD活動支援センターのウェブサイト「#ESDワカモノ(ハッシュタグESDワカモノ)」で公開中です。

8名の社会人ユースESDレポーターと取材先の例

	斉藤 美悠 一般財団法人北海道国際交流センター(HIF) レポート先 北海道上川郡 東川町役場企画総務課(北海道東川町)
	腰塚 安菜 オーガニックライフスタイリスト レポート先 渡良瀬エコビレッジ(栃木県下都賀郡藤岡町)
	内藤 圭祐 名古屋国際中学校・高等学校 教諭 レポート先 認定NPO法人アイキャン(愛知県名古屋市)
	野村 佳世 岐阜市立境川中学校 教諭 レポート先 のわみ相談所(愛知県一宮市)
	大橋 寛実 公益社団法人大阪自然環境保全協会会員 レポート先 生活協同組合 コープ自然派ピュア大阪(大阪府茨木市)
	井上 紘貴 岡山市京山地区ESD推進協議会 レポート先 済美平成中等教育学校(愛媛県松山市)
	江國 友哉 岡山市立山南中学校 教諭 レポート先 エコロジー東備(岡山県備前市)
	與儀 滝太 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立山口徳地青少年自然の家 レポート先 北九州まなびとESDステーション(福岡県北九州市)

全国センター・地方センター ウェブサイトで発信中

ESD活動支援センター(全国センター) 公式ウェブサイト

コンセプト

「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力をつけるウェブサイト」を目指し、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツづくりに努めています。
また、SNS等と連動して情報を一元的に発信し、ESDの魅力を伝える・ESD関係者を増やすツールにしたいと考えています。

目指している“役割”

- ESDを実践する方に役立つ情報を発信することによる、ESDの活性化
- [ESD]のフレーズを用いている情報の一元化、整理、蓄積と発信
- [ESD]のフレーズを用いていない[ESD]に関係する情報の洗い出しと統合

今年度は、昨年度に引き続きウェブサイトの「運用」に注力しました。各コンテンツの情報源は文部科学省、環境省公式ウェブサイトを中心に、ESD関係者から寄せられる情報を活用させていただきました。
また、全国センター後援事業については特に広報・成果共有に努めました。



ESD活動支援センター

ESD活動支援センター公式 Facebookページ&Twitter

Facebookページ
ウェブサイトの更新情報のほかに、センター主催イベントの告知や開催報告などを掲載しています。
▼いいね!数:360 ▼フォロワー数:386 (2018年2月末現在)
@2016esdcenter.jp
お気軽にいいね! / フォローしてください!

Twitter
主にウェブサイトの更新情報をツイートしています。
▼フォロワー数:65 (2018年2月末現在)
@esd_center
お気軽にフォローしてください!



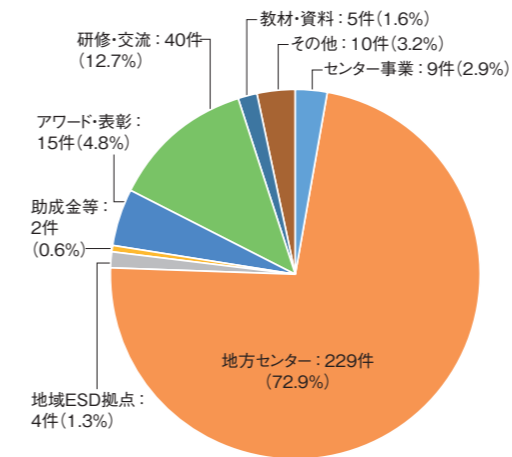
Facebookページ掲載: 「全国フォーラム2017」開催案内



Facebookページ掲載: 「全国フォーラム2017」開催報告

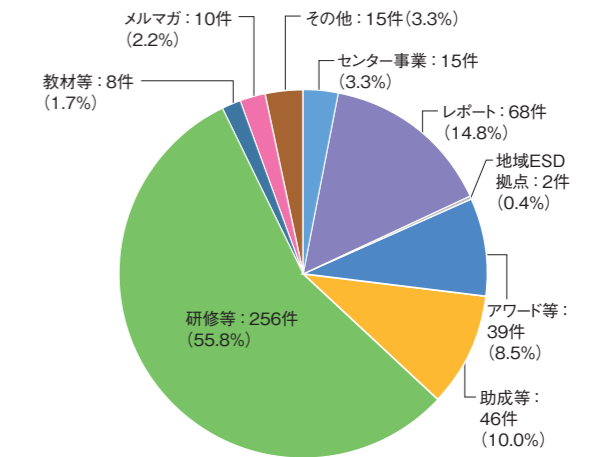
ウェブサイト・コンテンツのご紹介

●全国センターウェブサイト掲載記事:カテゴリ別件数(全314件)



※カテゴリ「地方センター」(229件)は、地方センターウェブサイトの更新情報等を指します。

●地方センターウェブサイト掲載記事:カテゴリ別件数(全459件)



※8つの地方センターウェブサイトの掲載記事総数でグラフ化。

私たちについて

「ESD推進ネットワークの目的」やネットワークのイメージ図、センター設立の背景など、「私たちについて」の情報を掲載しています。当センターの主催事業についても一覧形式でまとめています。また、ESD活動支援センターロゴマークのコンセプト、リーフレットのダウンロード用データもこちらに掲載しています。

地方センター 平成29年度新コンテンツ

平成29年度に全国8か所に開設された地方ESD活動支援センター(地方センター)の一覧です。各地方センターウェブサイトへのリンクや担当するエリア(都道府県)、住所等の連絡先を掲載しています。

地域ESD拠点 平成29年度新コンテンツ

平成29年度に、学校現場・社会教育の現場のESDを支援・推進する地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)として登録された組織・団体等のリストおよび詳細情報を掲載しています。(→p6~7)

アワード・表彰

ESD公式の賞、またESD関係の皆様を知っていただきたいESD関連の賞をご紹介します。

研修・交流

ESDに関連する研修や交流機会などの情報を、開催日の新しい順に掲載しています。

ESDとは

ESDに関する組織・団体の「ESD」についての説明ページをリンク形式でご紹介しています。「ESD」についての説明は各々の組織・団体ごとに対象者に合わせた独自の工夫がなされています。様々な「ESDとは」をご覧ください、ご利用ください。

公式ドキュメント

ESDに関する公式ドキュメント(宣言、国内実施計画、国連/ユネスコ文書、条例等)をまとめ、PDFデータを掲載しています。

#ESDワカモノ(ハッシュタグESDワカモノ)

全国から選出された若者世代のレポーターが、ESDに関する様々な活動にじかに触れ、生の声を聴き、「ワカモノ目線」でESDを切り取りレポートするコンテンツです。(→p9)

PICK UP

「地方ESD活動支援センター ウェブサイト」

今年度、7月~9月末までに全国8か所に地方センターが開設し、全国センターは地方センターのウェブサイト構築および運用の基盤を作りました。
各地方センターウェブサイトでは独自のコンテンツを運営し、情報掲載時には全国センターウェブサイトおよびSNSでも更新情報として発信します。

各地方センターウェブサイトへのリンクは全国センターウェブサイトの下記ページをご覧ください。

<http://esdcenter.jp/regional/>



北海道地方ESD活動支援センターウェブサイトトップページ

成果

- ウェブサイトとSNS両方で、情報をコンスタントに正確に発信できるよう心がけ、一定の評価を得られたと考える。
- ESD活動支援センター(全国・地方)共通の情報基盤を築き、8つの地方センターのウェブサイトが順調に運用されている。

今後に向けて

- 持続可能な開発目標(SDGs)関係の情報発信、国際分野の情報発信の強化等を行っていく。

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017

～地域におけるESDのさらなる展開に向けて～

ESD推進ネットワーク全国フォーラム(以下「全国フォーラム」)は、原則的に毎年1回、ESDの多様な主体が連携・協働していくために、ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、ネットワークが成長するための機会として開催しています。

第2回となる今年度の全国フォーラムには、主催者、関係者を含め、全国各地から2日間でのべ260名が参加しました。

<開催目的>

- ESD推進ネットワークと全国センター、地方センターおよび地域におけるESD活動の支援窓口となる地域ESD拠点に関する理解を広める。
- 分野、セクターを超えて多様な主体が連携・協働してESDを推進(質的向上・量的拡大)するために、お互いに面識を作り、地域を越えて実践例を基に学び合い、ESD推進方策について意見交換を行う機会を作る。
- SDGs達成に向けた意識・行動変革を進めるESDという意識の共有を進める。

<プログラム概要>

1日目:11月24日(金)

13:00	開会挨拶 ESD活動支援センター長/立教大学ESD研究所長 阿部 治 氏 文部科学省国際統括官 川端 和明 氏
13:15	フォーラム導入:ESD推進ネットワークと ESD活動支援センター(全国・地方) ESD活動支援センター次長 柴尾 智子 氏
13:25	セッションⅠ.地域におけるESDのさらなる展開に向けて 基調パネルディスカッション ファシリテーター 及川 幸彦 氏 東京大学海洋アライアンス機構主幹研究員/日本ユネスコ国内委員会委員
15:30	セッションⅡ.ESD推進ネットワークと多様な活動事例 ポスター発表・情報交流セッション
16:35	セッションⅢ.ESD関連省庁施策とESD推進ネットワークへの期待 ファシリテーター 佐藤 真久 氏 東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授

総合司会 認定NPO法人環境市民 下村 委津子 氏

開会挨拶より

●阿部 治 ESD活動支援センターセンター長/立教大学ESD研究所 所長

ESDは2015年採択されたSDGsを支える中心となるものです。日本のESDは、学校、地域、行政など多様なステークホルダーが関わる総合的な取組としてユネスコからも高く評価されています。本フォーラムには各地域から様々な方々が参加されていますが、それぞれの経験を共有し、活発な議論が行われることを期待しています。立教大学ESD研究所は、ESDによる地域創生をテーマに、地方自治体と連携しながら研究を進めています。ESDが今後地域から世界まで含めたグローバルな活動として展開していくことを期待しています。

●川端 和明 文部科学省国際統括官

SDGsが世界中で急速に注目を集める中、ESDの重要性もますます高まっています。ESDは人材育成を通して地域の持続可能性に貢献しようと考えます。特に、今年全国8か所で活動を開始した地方センターについては、地域におけるESD関連団体同士のネットワークのハブとなることを期待しています。本フォーラムが、地方センターの活動及び地域におけるESDをさらに展開させ、また、全国センターの活動をますます充実させる機会となることを願っています。

<開催概要>

- 主催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省
- 共催 立教大学ESD研究所
- 日時 平成29年11月24日(金) 13:00-18:00
25日(土) 9:30-13:00
- 会場 立教大学 池袋キャンパス
太刀川記念館(全体会)、5号館(分科会)

2日目:11月25日(土)

9:30	セッションⅣ.分科会:地域ESD拠点の可能性 分科会1) 森里川海と大人・子どもの学びをつなぐESD 分科会2) 公的施設との連携で展開するESD 分科会3) 地域と学校をつなぐコーディネート機能を 生かしたESD 分科会4) 学校における持続可能なESDをめざして
11:30	セッションⅤ.総括(分科会結果発表・意見交換) ファシリテーター:鈴木 佑司 氏 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事長 総括コメント:重 政子 氏 NPO法人 持続可能な開発のための教育推進会議 共同 代表理事
12:50	閉会挨拶 環境省総合環境政策統括官 中井 徳太郎 氏

総合司会:東京都市大学 伊藤 通子 氏

セッションⅠ. 地域におけるESDのさらなる展開に向けて 基調パネルディスカッション

「国連ESDの10年」からESDに取り組んできたNPO、企業、教育委員会の実践事例の発表をうけ、そのような地域におけるESD実践がより発展していくために、また、さらに広がっていくために、今年開設された地方センターはどのような役割を果たすべきなのか、意見交換を行いました。

ファシリテーター:東京大学海洋アライアンス機構 主幹研究員/
日本ユネスコ国内委員会 委員 及川 幸彦 氏

1. 各地域・団体からの実践事例の発表
 - <NPO> 一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長
(秋田市地球温暖化防止活動推進センター) 福岡 真理子 氏
 - <企業> 住友理工株式会社CSR部長 戸成 司朗 氏
 - <教育委員会> 大牟田市教育委員会 教育長 安田 昌則 氏
2. 地方ESD活動支援センターとの連携による展開に向けての意見交換:
発表者3名及び柴尾智子ESD活動支援センター次長
3. 総括



<発表・質疑応答より>

●福岡 真理子 氏

あきた地球環境会議は、学校向けのESD環境教育プログラムの構築と実践を中心に、ESD活動を全県域や海外で実施しています。ESD指定校での公開研究会授業を含め、小学校から高等学校でも、活動の機会が広がっています。

プログラムの構築にあたっては、理科教師、秋田市地球温暖化防止活動推進員、環境NPO、自治体環境部局、東北環境パートナーシップオフィスなどからの6~7名から構成されるプログラム開発検討委員会を組織し、持続可能な社会を創る人材の育成を目的として、多様なテーマを設定しています。

このプログラムの構築にあたり東北環境パートナーシップオフィスから東北エリアの他団体の事例の紹介などを含む支援を受けています。今後は東北地方センターともそうした連携関係の構築を期待しています。

私たちの構築した環境教育プログラムがなかなか全国に普及していないことから、地方センターには、まず既存のリソースを整理して発信してほしいです。子どもからも意見を聞くなど、多様なステークホルダーにフォーカスしてほしいです。秋田県は再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域なので、発電事業者などの企業とのマッチングにも支援を期待しています。

●戸成 司朗 氏

現在、企業は価値創造型CSRの未来指標として、SDGsを経営の中に組み込もうとしています。理由としては、世界各国の政府の優先事項と自社の戦略の方向性と一致させることにより、政府や市民からその地域での事業活動を受け入れられるということと、SDGsに取り組むことにより成長可能性の高いビジネスモデルが構築できるということの2つが考えら

れます。

SDGsへの取組の推進には、経営戦略としてSDGsに取り組むトップダウンのアプローチと、従業員が社内活動として参加するボトムアップのアプローチとがあり、両側面からの働きかけが必要です。ボトムアップのアプローチによるESDの取組に企業人が参加することで、子どもから大人まで一貫した持続可能な社会づくりの担い手の育成の流れを作ることができると考えます。

経団連の企業行動憲章もSDGsの達成を柱として改定されました。企業がSDGsを意識している今こそ、地方センターが企業の経営陣にアプローチし意識を変えていくいい機会だと思えます。また、企業の従業員の社会課題に対する認識度である「社会感度」を上げていくという点でも地方センターが役割を果たすと考えます。私は、中部地方センターに協力していますが、今まであまり参加のなかった企業の視点をESDに取り込むことができるよう取り組んでいきたいと考えています。

●安田 昌則 氏

大牟田市では、平成24年1月には市内の全市立学校がユネスコスクールに加盟し、大牟田版SDGsやGAPを作成して教育委員会や各学校で実践しています。各学校では、環境、福祉、世界遺産学習、地域などのテーマでESDに取り組んでいます。教育委員会では、研究会や講座を開催したり、広報誌などでESDの取組を広報したりしています。また、「大牟田市ユネスコスクールの日」の制定や、市長を本部長とするESD推進本部の設置など、市をあげてESDを推進しています。

人口減少・高齢化などの課題に対して、教育委員会や学校が各団体、地域の方々と連携しESDに取り組むことで、市全体や各校区の活性化につながっています。

各学校にユネスコスクール担当者を位置づけ、教育委員会・校長代表・教頭会代表とユネスコスクール担当者会を組織し、市全体や各学校の具体的実践について協議したり、研修会、ユネスコスクール子どもサミットなどを開催したりしています。

九州地方センターには、「情報・人・組織・活動・学び」の5つの観点からの連携の推進を期待しています。例えば、教育委員会としては、講演会の講師や参加者の紹介や、各団体の活動の紹介などが受けられればと考えています。直接・間接の財政的支援があればもちろんうれしいです。

●柴尾 智子氏

活動の現場にも、本部機能のある場所にも、それぞれに情報がありニーズがあります。地方センター・全国センターが連携して、これらの情報やニーズを丁寧につないでいくことで、地域のESD実践に役立つ仕組みをつくっていききたいと思います。

<ファシリテーター 及川 幸彦氏の総括より>

ESDの10年を経て、ESDの広がりには地域の偏在もあり、社会に十分に浸透したとは言えない状況です。そのような状況を変えるために全国センターに続いて、地方センターが開設され、このようにESD推進のためのネットワークを語れる形になったのは喜ばしいことです。

セッションII. ESD 推進ネットワークと多様な活動事例 ポスター発表・情報交流セッション

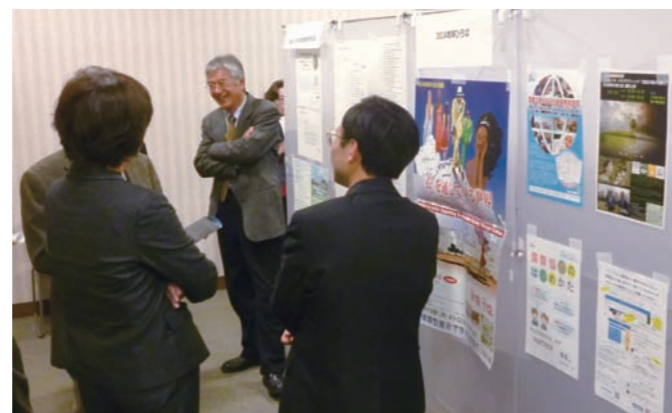
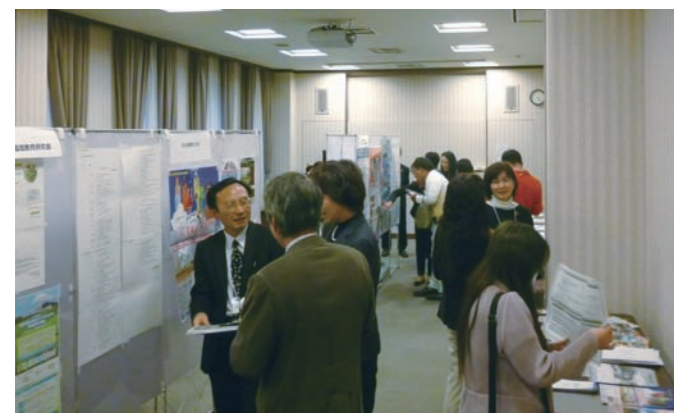
全国レベルのESD推進組織によるポスター発表を行いました。また、全国センター、地方センターが情報ブースを設け、参加者との情報共有・交流を行いました。

●ポスター発表参加組織・団体

全国小中学校環境教育研究会
独立行政法人国際協力機構(JICA) JICA地球ひろば
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
日本ジオパークネットワーク

地方センターには、以下のような3つの重要な役割があると思います。

- ①地域のESDを持続・発展させ、ネットワークを面的に広げながら、相互の交流を促進する。
 - ②地域の持続性という大きな課題に向き合っているESD実践者に対して、「つながった」結果どのような効果が生まれるのかを明確にしながら、質の高い支援を提供する。
 - ③ESDコンソーシアム、地球温暖化防止活動推進センターなど、既存のネットワークや取組を活かす。
そういう地方センターの活動から期待できる効果としては、以下3点があるのではないのでしょうか。
- ①ESDを実践しながら、これまでお互いにコミュニケーションがなかった主体同士がセンターができたことでつながり、協働する仕組みができること。
 - ②「ESD」を意識せずに、持続可能な社会づくりのための活動をしていた主体を見出し、「ESD」を認識してもらい、同じ土俵に上がってもらうこと。
 - ③地域の偏在(ESDの空間的な濃淡)が、様々な主体と協力によって解消されていくこと。
また、SDGsという国際的に整理された目標・方向性を活用して地方の取組をタグ付けすることで、ローカルな取組が国際的にも認知され、価値づけされていくというメッセージを出していくことも重要です。



セッションIII. ESD関連省庁施策とESD推進ネットワークへの期待

ESD関係省庁から、ESDに関連する施策をご紹介いただき、併せてESD推進ネットワークへの期待を伺いました。

ファシリテーター：東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授
佐藤 真久氏

1. 各登壇者発表
文部科学省 国際統括官付 国際戦略企画官 小林 洋介氏
外務省 国際協力局地球環境課 首席事務官 滑川 博愛氏
消費者庁 消費者教育・地方協力課長 尾原 知明氏
環境省 大臣官房環境経済課 環境教育推進室 室長 永見 靖氏
2. コメント
ESD 活動支援センター センター長 阿部 治氏
3. フロアとの質疑応答



<発表・質疑応答より>

●小林 洋介氏

文部科学省は、環境省と共同でESD推進ネットワークの形成を提案し、全国及び地方のESD活動支援センターにおける取組を支援しています。このESD推進ネットワークを通じ、ESDの多様なステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、分野横断的に協働・連携してESDを推進することを期待しています。

文部科学省では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、ユネスコスクール事務局の設置、ユネスコスクール支援大学間ネットワークの形成、ESD推進のためのコンソーシアムの形成などの施策を展開しています。

これらの取組のうち、特に、コンソーシアム事業を通じては、学校教育の場だけでなく、社会教育分野を含めた多様なステークホルダーとの協働により、地域全体でESDを推進する取組を進めています。地方センターと各地域のコンソーシアムが連携することにより、双方の活動への相乗効果が生まれ、地域におけるESDの一層の質的向上及び定着が図られると考えておりますので、地方センターには、ぜひコンソーシアムとの連携・協働を検討していただきたいと思っています。

平成29年3月公示の新しい学習指導要領には、前文及び総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられるとともに、各教科に関連する内容が盛り込まれました。ESDの重要性がますます高まっている中、ESD活動支援センターの活動に期待しています。

●滑川 博愛氏

外務省では、SDGsに対する市民や企業等の理解・認知を高めるため、民間企業・市民社会・地方公共団体等の様々なステークホルダーと連携してSDGsを主流化する取組を実施しています。また、SDGsに関連する民間企業・地方公共団体の取組を推進しています。さらに、「人間の安全保障」の理念に基づき、SDGsに係る国際協力を積極的に実施しています。

特に、SDGs目標4に関しては、2015年開発協力大綱において「万人のための質の高い教育」を重点課題とし、政府開発援助(ODA)を通じた途上国における教育分野での支援や、海外での教育支援・ESD推進活動を行う日本のNGOとの連携、関係国際機関との協力を通じた国際貢献等の施策を実施しています。

海洋ごみの問題のように、身近な課題への取組が、途上国を含む地球全体の課題の解決に貢献すると思います。また、SDGsは途上国と先進国共通の課題であり、地域のSDGsに向けた活動を通して国際協力に関心を持つ人が増えていくのではないかと期待しています。

●尾原 知明氏

消費者教育推進法では、「自らの消費生活に関する行動が将来にわたって内外の経済社会情勢及び地球環境に影響を及ぼしうることを自覚して、公正かつ持続的な社会の形成に積極的に参画すること」(=消費者市民社会の形成)を含む消費者教育推進の重要性が謳われています。消費者生活に関する問題を社会の問題と理解することは消費者教育の重要な役割です。エシカル消費は、その具体的な行動例の一つです。

消費者庁はSDGs目標12(つくる責任、つかう責任)に係る施策の一つとして「エシカル消費の概念の普及啓発」を登録し、その推進に努めています。

「一人ひとりの消費行動が社会を変える」ということを意識することにより、消費者が社会的な視点から行動できるようになり、より豊かな社会が生まれるのではないかと考えます。

●永見 靖氏

環境省では、文部科学省との共同で実施しているESD推進ネットワークの構築や、関係省庁連絡会議による「ESD国内実施計画」の推進のほか、環境教育促進法などに基づく環境人材育成や自発的な取組を促すための施策を展開するとともに

に、地方環境パートナーシップオフィスによるESD推進のための先導的拠点整備事業を実施しているところだ。

また、外部機関との協働により、国連大学サステナビリティ研究所との連携によるアジア太平洋環境大学院ネットワーク(ProSPER.Net)やESDの専門家の地域センター(RCE)構築の推進、独立行政法人環境再生保全機構との連携による全国ユース環境ネットワーク促進事業や地球環境基金事業等を進めているところだ。

環境省は、引き続き文部科学省等の関係省庁と連携して、多様な主体との連携・協働によるESDの推進を着実に推進していきます。

今後もESD推進ネットワークをさらに広げていきたいと考えており、関係省庁や企業に声をかけ、具体的な連携の形を示してネットワークへの参加を呼びかけていきたいと考えています。

<ESD活動支援センター長 阿部 治 氏のコメントより>

地域については、過疎化や東京一極集中が最も大きな課題であることから、8つの地方センターには、地域の持続可能性に重点を置き、地域の人たちが自分の地域に誇りを持つような活動を進めてもらいたいと思います。文部科学省には、

セッションⅣ 分科会:地域ESD拠点の可能性

「地域ESD拠点」の具体的なイメージを考えるために、4つの分科会で多様な主体による効果的、先導的な実践について話題提供いただき、「地域ESD拠点」によるESD推進の役割の可能性や、地方センターの役割について意見交換を行いました。

分科会1)

森里川海と大人・子どもの学びをつなぐESD

ファシリテーター

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)
代表理事 辰野 まどか 氏

<話題提供より>

●公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館 事務局長 尾上 忠大 氏

公益財団法人吉野川紀の川源流物語では、紀の川・吉野川の源流に位置する川上村において、「森と水の源流館」を拠点に環境学習に関する様々な取組を行っています。ESDに関わる取組としては、流域の産業や人のつながりづくりを重視しながら、流域の産業を素材としたESD教材を提供しています。例えば、流域の統一ブランド「紀の川じりし」を創出し、森里川海のつながりを可視化し、林・農・漁業を中心とする産業の活性化や課題の解決に向けた相互理解の促進を目指しています。また、近畿ESDコンソーシアムの一員として実施する事業「森と水の源流館授業づくりセミナー」では、流域自治体・教育委員会・学校と連携し、地域情報や体験機会の提供などを通じてESDの授業づくりを支援しています。

学校の統廃合が進み地域が空洞化する中で、地域の多様な資源を見出し、学校が地域創生の拠点として活動していくために、ESDを活用して他省庁と連携していただきたいと思えます。外務省をはじめとする中央省庁には、グローバルな視点を取り入れてもらいたいと思えます。また、消費者庁には、消費者教育の推進に関する法律について理解が進むよう、他省庁や地方自治体、ESD活動支援センターとも連携をとっていただきたいと思えます。

<ファシリテーター:佐藤 真久 氏のまとめより>

省庁や地域を含め、ESDの様々な現場をつないでいくことが重要となりますが、「ESD」は現場をつなぐキーワードの一つであり、ESD活動支援センターは多様な主体をつなぐという役割を果たすことができるのではないかと思います。また、各省庁の発表から、「SDGs」は既存の課題を新たに捉え直すための一つのツールになるのだと感じました。2009年のユネスコ会議では、「統合的なレンズ」、「文脈的なレンズ」、「変容的なレンズ」、「批判的なレンズ」というESDの4つのレンズが提案されましたが、こうしたレンズを通して世界共通の課題を見ることで、グローバルな取組が深化し、地域も活性化するのはないかと感じています。

●三嶺の森をまもるみんなの会

押岡 茂紀 氏

三嶺の森をまもるみんなの会は、物部川源流の三嶺山域におけるシカ食害の進行に危機感を抱いた登山者団体や流域住民らが、民官学の緩やかなネットワークとして立ち上げた組織で、市民や関係機関等の参画を促しながら、保全再生活動や調査活動、普及啓発活動を展開しています。地域の教育機関とも連携し、主に流域の小学校やエコクラブを中心に、源流域での保全再生活動などを通じて、森・川・海のつながりや自分たちの生活とのつながり等を学ぶ機会を提供しています。こうした活動を通じて、シカ食害による環境変化とその影響について子ども達や市民の関心・問題意識の向上、行政の対策推進の後押しに寄与し、流域の環境・生態系・生物多様性保全、ひいては持続可能な地域の形成に貢献しています。

<意見交換より>

話題提供者の活動について参考になったこととして、調査やフィードバックに基づいた普及啓発活動が行われていること、活動を可視化し



ていること、市民がそれぞれ当事者として活動に関われるようサポートをしていること、活動がSDGsにどう貢献しているかを明確に伝えていること、キーワードやテーマを打ち出すことにより地域を超えたつながりを生むことができていることなどが挙げられました。

また、地域ESD拠点によるESD推進の役割の可能性として、ユネスコスクールなどともつながれる可能性があるのではないか、福祉と農業の連携である農福連携などにも貢献できるのではないかといった意見がありました。

分科会2)

公的施設との連携で展開するESD

ファシリテーター

宮城教育大学 教授 小金澤 孝昭 氏

<話題提供より>

●公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

江東区深川江戸資料館 小張 洋子 氏

江東区深川江戸資料館では、ESDに関わる活動として、平成27年度より江東区立八名川小学校との連携事業「江戸・深川の町を語ろう」を実施しています。この事業では、八名川小学校の6年生が、総合的な学習の一環として、地域の歴史を自分たちの力で調べ、資料館の常設展示室で発表します。資料館では、学校への出前授業を行うなど事前学習のサポートや、発表当日の準備などの支援を行っています。

この事業により、子どもたちが自分の町や歴史に興味を持つようになり、自主的な学習につながっていると考えます。また、地域の学校との連携により、見学だけではない継続的な資料館の活用につなげることができると考えます。

●津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ 所長

中平 徹也 氏

津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザは、「持続可能な社会の構築に向けた“人”の育成」のコンセプトのもと、ESDの視点を取り入れた来場者への説明を行っています。

当施設には小学校4年生が総合的な学習の一環として訪れますが、自分たちの暮らしを見直すことで持続可能な社会が実現することに気づき、考え、自ら行動することができるような機会を提供しています。プログラムの内容については地域の教育委員会や市町の環境部門と協議を行って作成しています。

当施設での見学や講習により、ごみを減らすことがどのように持続可能な社会の構築につながるかを考える機会となり、持続可能な社会に対する理解と行動につながっていると考えます。

<意見交換より>

参加者からは、公的施設の評価は、利用者の人数が基準となることが多いが、活動の内容も重要な評価の観点となってく

るという意見が出ました。

また、学校との連携を進めるため、出前授業など、もっと学校に向けて情報発信をすることが重要ではないか、学びを深めるために、他地域の同様の施設との情報共有・交換が重要ではないか、などの提案がありました。



分科会3)

地域と学校をつなぐコーディネート機能を生かしたESD

ファシリテーター

認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ事務局長・
いばらき未来基金事務局担当 大野 覚 氏

<話題提供より>

●板橋区成増小学校支援地域本部 代表

白鳥 円啓 氏

学校支援地域本部事業は、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制を整えることを目的として、平成20年に文部科学省により開始された事業です。成増小学校支援地域本部は、学校の求めと地域の力を組織的にマッチングすることにより、学校が必要とする活動の地域による提供を支援しています。

学校支援地域本部に配置される地域コーディネーターは東京都だけで2,000人近くおり、学校支援活動の企画提案・運営、学校と支援ボランティアとの間の調整などを行っています。また、学校と協働して総合的な学習の時間の授業を企画するなど、地域レベルでの持続可能な解決策の探求も行っています。コーディネートにESD視点を取り入れることで、子どもたちが地域の一員として地域への愛情を深めたり、子どもたちの学びの多様性が生まれたり、学校を中心とした地域ネットワークが形成されたりしています。

●石狩市環境市民部 環境保全課 自然保護担当 兼

石狩浜海浜植物保護センター 技師 高橋 恵美 氏

石狩市では日本でも数少ない自然海岸が残っており、自然の防潮堤といわれる海岸砂丘が広がっています。しかし、海岸でのレジャー利用増加に伴い、海岸砂丘へのバギー車の過度な乗り入れなどにより海浜植物が減少しました。その背景から石狩市では条例で海浜植物等保護地区を設け、保護活動の拠点として石狩浜海浜植物保護センターを設置し、海浜植物及び海岸の保護活動を進めています。当センターでは、次世代に石狩浜を残していくため、市内の小中学校において、石狩浜について総合的な学習などを様々な団体と協力し実施しています。近年では学校教育の一環として実際に海岸に足を運んでもらい、現状を肌で感じてもらっています。教育機関からの相談に応じてプログラムの構築をしており、昨年は

石狩浜で活動するNPO法人と当センターの活動プログラムをまとめ、より多くの教育機関で利用しやすいものを作成しました。

<意見交換より>

地方センターの果たす役割について、高橋氏より、学校は地域のESD関連団体の情報を把握しきれていないので、地方センターからの情報提供や助言を期待するとの意見がありました。また、白鳥氏からは、各団体や活動についての情報を共有したり相談し合ったりできるようなゆるやかな集まりの場を作り、そういった場に定期的に地域コーディネーターが集まることによって知見の蓄積につながるのではないか、との提案がありました。



分科会4)

学校における持続可能なESDをめざして

ファシリテーター

福岡教育大学教育学部 教授 石丸 哲史 氏

<話題提供より>

●伊豆市立天城中学校 校長 日吉 隆徳 氏

天城中学校では、ESDを学校教育目標「夢をもち、共に生きる生徒」の育成に向けた一つの視点として捉え、総合的な学習の時間を中心に、地域の様々な事象の中から課題を見つけ、教科横断的な学習や体験的な学びを通して、「多面的・総合的に考える力」、「コミュニケーション力」、「他者と協力する態度」などの資質・能力を育む活動を展開しています。

これまでの実践により、生徒の挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感などが向上してきており、郷土愛や地域に対する

深い理解も高まっています。また、教員のカリキュラム・マネジメント力も向上し、より主体的・対話的で深い学びにつながる学習指導ができるようになっていきます。

●静岡大学 ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムコーディネーター／元伊豆市立天城中学校 校長 大塚 明 氏

天城中学校では、総合的な学習における体験活動を「天城学習」と名づけてESDの視点で見直し、全ての教育活動に「持続可能な社会の担い手を育てる」という背骨を通して取り組みました。そして、「地域を持続可能にするには」という問いに対する答えを考え、行動することを目標にESDを推進してきました。この活動の中から「ツゲ峠鹿柵プロジェクト」が生まれ、市に対し地域の産業や農業・自然を持続発展させるための様々な提言がなされました。

天城中学校のESDが継続して実施できた理由としては、「生徒の自尊感情が低い」という学校の教育課題から出発した取組であったこと、地域やPTAの協力が得られたこと、学年を越えて生徒同士がつながる仕組みがあったこと、そして校長や教員が代わってもESDの価値に対する理解が受け継がれ、実践をただ踏襲するだけでなく新たに加わった先生方によって新しい視点加わっていったことなどが考えられます。

<意見交換より>

参加者からは参考になる点として、「教員間だけでなく地域とも連携し、地域の資源を活用しながら地域に貢献していること」、「地域や保護者に対して活動を可視化し情報発信していること」、「個人ではなく組織と連携することで活動の継続性を確保していること」、「一つの活動に環境教育や防災教育等様々な要素が含まれているため教員の負担が少ないこと」などが挙げられました。



ESD実践見学

11月24日(金)の午前中に、希望者を対象に、以下のESD実践見学が行われました。

雑司ヶ谷未来遺産まちあるき



協力：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、NPO法人としまユネスコ協会、江東区立八名川小学校

江東区立八名川小学校(ユネスコスクール)



セッションⅤ 総括

セッションⅣの各分科会の成果を共有し、全国フォーラム総括の意見交換を行いました。

ファシリテーター：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事長

鈴木 佑司 氏

1. 分科会結果の発表
2. 質疑応答・意見交換、全体討議
3. 総括コメント
NPO法人 持続可能な開発のための教育推進会議
共同代表理事 重 政子 氏



各分科会からの報告の中で、また、参加者から、全国センター・地方センターに期待する役割として次のような意見が出されました。

- 地域ESD拠点ほかの団体とのネットワークを形成するためのワークショップや交流の場を作ってほしい。
- 学校支援地域本部事業とESDが必ずしもつながっていないので、既存の仕組みを使ってESDを推進していくようESD活動支援センターからも働きかけてはどうか。
- 学校でESDを実践するにはカリキュラムマネジメントが重要になってくるため、事例を学ぶだけでなく、どうやって具体的なカリキュラムとして実行できるかについての方法も知りたい。また、学校が受け入れる外部講師と考え方にずれがあることがあるので、外部講師とカリキュラムを一緒に作る場があればと思う。
- 地域ESD拠点同士の「横」の連携だけでなく、地域ESD拠点と省庁の政策などとの「縦」の連携も重要であることから、全国センター・地方センターには情報共有の仕組みを確立してもらいたい。

<重 政子 氏の総括コメントより>

全国フォーラム2日間のプログラムを振り返ってみますと、ESD推進ネットワークにおいて最も重要なのは、ESD推進の現場であること、現場の方々が分野を横断してつながり、それぞれの専門を活かしながら課題解決の活動を進めることで、持続可能な未来を担う人づくりが可能であると再確認で



きたことです。ESDの価値を理解し、力を育むことによってこそ、地域が活性化され、SDGsの達成が可能となると思います。

<ファシリテーター:鈴木 佑司 氏の総括より>

日本ユネスコ協会連盟の70年の長い歴史を振り返ってもわかるように、個人の力だけで活動を継続させることは難しく、ある程度の制度化がどうしても必要になってきます。ESD推進ネットワークの構築が第2段階を迎えた今、既存の素晴らしい活動を基盤として皆様方の努力のもとに、多様な主体が関わることができる制度や協力のネットワークを構築していくことが重要な課題であると感じました。

閉会挨拶より

●中井 徳太郎 環境省総合環境政策統括官

ESD推進ネットワーク全国フォーラムは、ESDを実践している団体や組織の方々が、持続可能な社会を作るための人づくり、地域づくりの実践を共有し意見交換できる機会として昨年度から開催しているものです。第2回となる今回は、より実践的な情報の提供や議論の場の提供に重点を置いており、本フォーラムへの参加を通じて得られた有益な情報や気づきが、今後の皆様の活動のさらなる推進につながれば幸いです。ESD推進ネットワークが強化され、貴重な情報交換、交流、つながりのシステムとして本格的に展開していくことを期待しています。

成果

- 昨年度の経験や関係者の要望を反映して2日間のプログラムとして分科会やポスターセッションを設けたことにより、内容を充実することができた。
- ESD関係省庁から政府の取組やESD推進ネットワークへの期待を紹介することができた。
- 地方センター・全国センターの役割に対する期待の整理が進んだ。

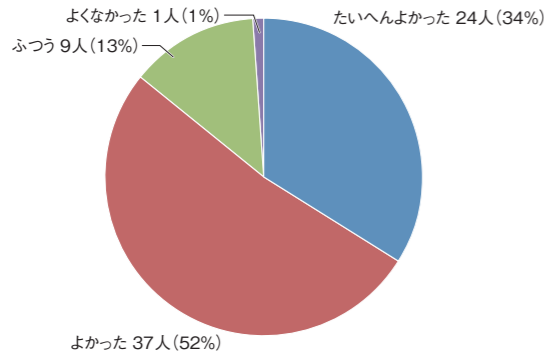
今後に向けて

- 地域ESD拠点の登録の進展に合わせて、地方センター開催のフォーラムとの相乗効果を生み出せるようなプログラムとなるよう工夫する必要がある。

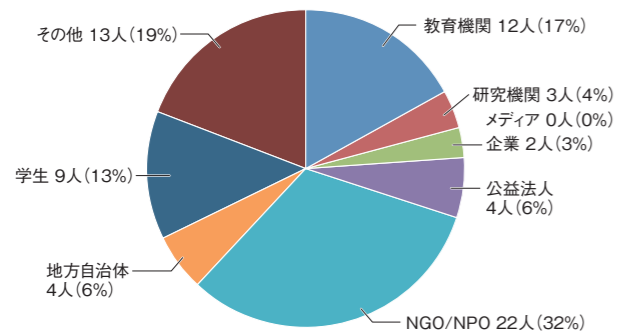
平成29年度全国フォーラムアンケートより

参加者のべ人数 260名 参加者実数 176名 アンケート回収 72件 回収率 40.9%

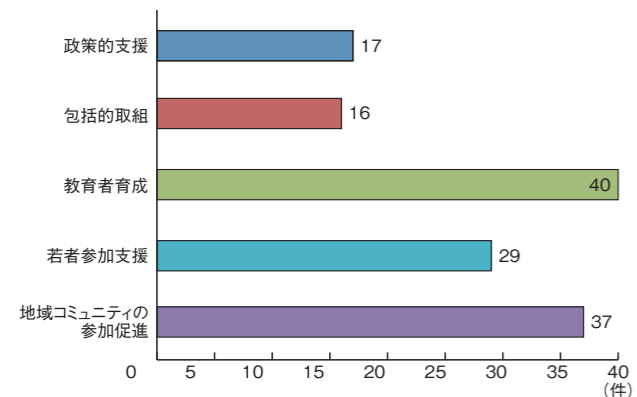
●フォーラムの内容について



●どのような立場でご参加されましたか。(おひとつお選びください。)



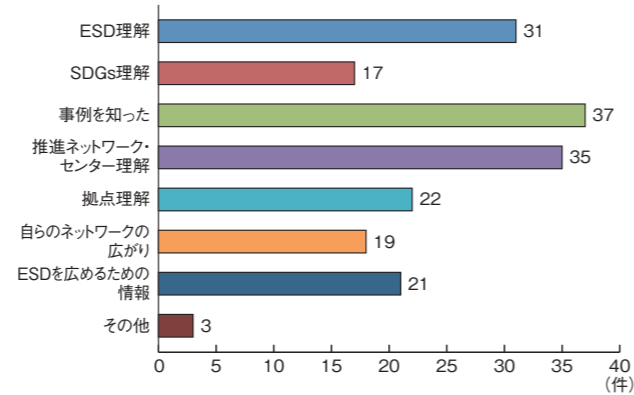
●活動の重点はどこにありますか。(ESDに関するグローバル・アクション・プログラムに基づく。複数回答可)



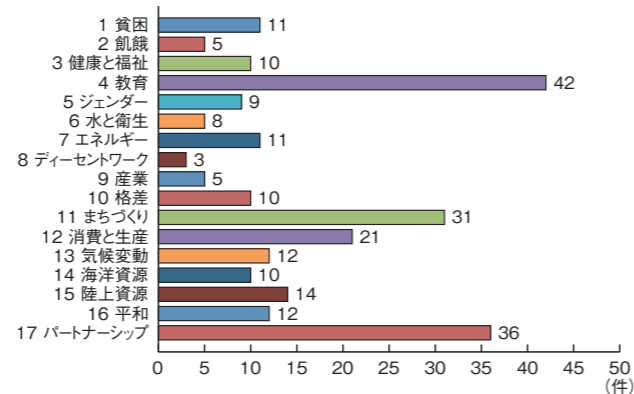
アンケート自由記述より

- 「つながり」を求めて参加させていただきましたが、まさに「つながり」ことができました
- 各地の動きについて全体を知ることができた。
- 多様なESD活動の事例から新しい異なる視点からの展望がみえてきたが更に異なる分野との連携が不足であったか。
- これまでセンターとつながりが薄かった団体や行政の方が参加し、センターとは何かを知り、どう連携していきたいかを相互的に知ることの出来る全国フォーラムを期待します。

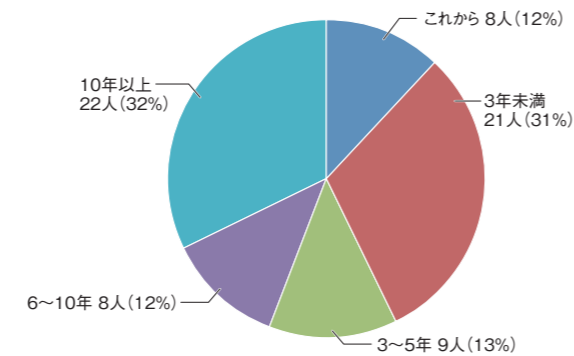
●本日のフォーラム参加の成果について(複数回答可)



●取り組んでいる課題(テーマ)について、「持続可能な開発目標(SDGs)」からお選びください。(複数回答可)



●ESDへの取組に何年くらい関わってこられましたか?(ESDという用語を使っているかどうかは問いません)



国際フォーラム

ユネスコ・マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所(UNESCO MGIEP)が拓くESDの新しい地平

■ユネスコ・マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所(UNESCO MGIEP)

UNESCO MGIEPは、2012年にインド政府の支援により設立されたアジア初のユネスコ直轄研究所です。「Transforming Education for Humanity(人類のための教育の変革)」というビジョンのもと、アジア太平洋地域における平和と持続可能な開発のための教育を推進しています。

■講演の概要:SDGsターゲット4.7と情動的知能への注目

UNESCO MGIEPでは、SDGsターゲット4.7の提唱する「持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の獲得」に対する取り組みとして、知能だけではなく「情動的知能」にも着目し、脳科学に基づく様々なプログラムを実施しています。特に、「若者」、「SEL」(Social and Emotional Learning: 社会情動的学習)、「デジタル・テクノロジー」の3分野を中心に活動を展開しており、「若者」に関しては、アジア各国の若者の団体やネットワークをつなぐプログラムを実施し、「UN Decade of Kindness 国連優しさの10年」の実現に向けて署名を集めるプロジェクトなどを展開しています。「SEL」に関しては、「批判的思考(critical inquiry)」、「マインドフルネス」、「共感(empathy)」、「他者のために行動する力(compassion)」の4つのコア・コンピテンシーを育成するためのSELカリキュラム開発などを行っています。「デジタル・テクノロジー」に関しては、SDGsについて学ぶためのデジタルゲームの開発や、ICTを活用した異文化交流のプロジェクトなどを実施しています。

■討論のコメントから

●小澤 紀美子 氏

情報化社会になるほど情動が重要になってきますが、先進国では子どもに自然体験が不足しており、社会情動的スキルやアタッチメントの形成にも影響してくると思います。ESDには深い学びや人との共感性が重要であり、平和・人権教育が基礎となるでしょう。

●北村 友人 氏

社会が急速に変化する中で、我々は技術の進歩にばかり気を取られ、もっと大切な情動に関わる部分を忘れがちのように思います。東京大学の「i.school」というイノベーション教育プログラムは「人間中心のイノベーション」を標榜していますが、技術の進歩に惑わされることなく人間中心のイノベーションを進めるこそがESDではないかと思えます。

●望月 要子 氏

UNESCO MGIEPでは、テキスト作成者に向けた科目別の

ESD導入のためのガイドブックや、アジアにおける平和教育、ESD、グローバル市民教育の現状を分析したレポートを出版しましたが、その結果、ほとんどの国において教育は人材育成のためのものとして捉えられていることが明らかになりました。ユネスコでは、教育の目的を捉え直し、経済発展だけでなく人道的なアプローチから教育を捉えることを目指しています。

最後に、日本がUNESCO

MGIEPとどのような形で協働しようかというテーマについて意見が交わされ、「日本のいじめや登校拒否などに対する取組みとつなげてはどうか」、「掃除や部活動など日本の学校教育特有の教育手法を活かす可能性があるのでは」、「地域の高齢者から伝統知を学ぶような日本的ESDからも学べるのではないか」といったアイデアが示されました。デュライアバ所長は、「知能と情動的知能の両方を獲得した上で、経済だけではなく社会や環境といった視点から社会的課題の解決に向けて行動を起こすことで、SDGs全ての達成に貢献することができる。」と述べ、日本の関係者に協働を求めました。



開催概要

- 日時 2018年2月8日(木) 14時00分~17時00分
- 会場 東京大学弥生講堂一条ホール
- 主催 ESD活動支援センター、UNESCO MGIEP、文部科学省、環境省
- 共催 東京大学教育学部附属学校教育高度化・効果検証センター
- 参加者 42名(主催者関係含む)

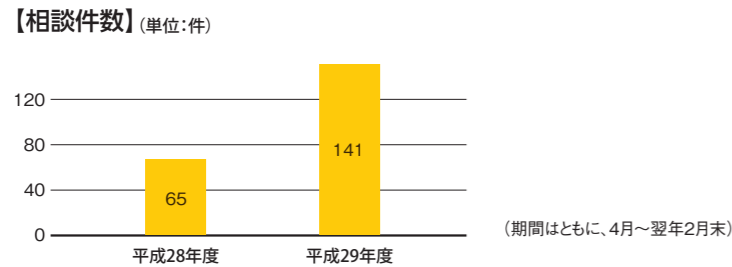
プログラム概要

開会挨拶	池原 充洋 氏(文部科学省文部科学戦略官)、田代 浩一 氏(環境省環境教育推進室 室長補佐)、阿部 治 氏(ESD活動支援センター長)
講演	アナンタ・デュライアバ 氏(UNESCO MGIEP所長)
討論	小澤 紀美子 氏(日本ESD学会副会長)、北村 友人 氏(東京大学大学院教育学研究科准教授)、望月 要子 氏(UNESCO MGIEPカリキュラムチーム長)
質疑応答	

司会進行:ESD活動支援センター副センター長 鈴木 克徳 氏

相談窓口

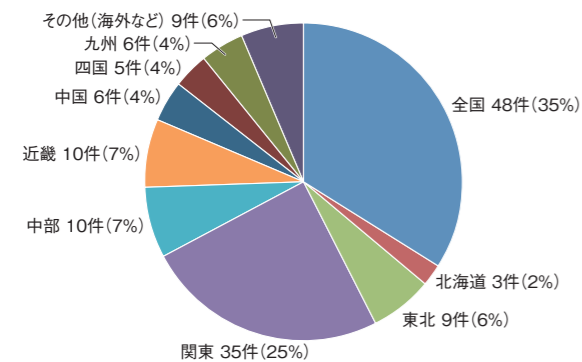
ESD活動支援センターでは、ESD活動を実践するにあたっての相談や支援の要請などを、電話、メール、ウェブサイトのフォーム、訪問などで受け付けています。お問い合わせやご相談の件数は、平成28年度(4月～翌年2月末まで)の65件に対し、平成29年度(同期間)には141件に増加しました。



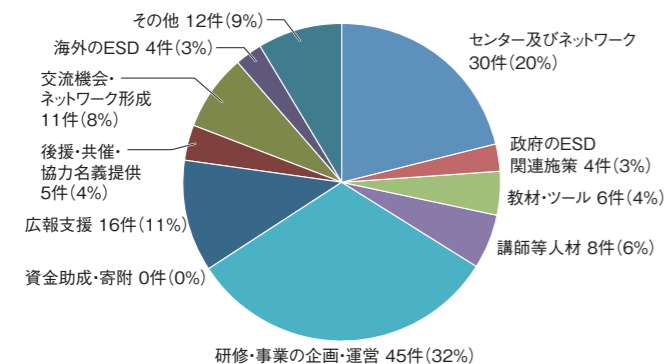
●相談件数増加の背景には次のことが考えられます

- 昨年から引き続き広報協力や後援を行ったことで、それらに関する相談が増加した。
- 地方センターが開設されたことで、ESD推進ネットワークの情報を得る機会が増え、関心の高まりが生まれた。
- SDGsの普及にともない、SDGsのロゴマークやESDとの関連についての問い合わせが増えた。
- 海外(韓国、英国)からも、日本のESDについて知りたいという目的での訪問があった。

【相談者の活動対象地域】



【相談の内容】



成果

- 相談、問い合わせに対して、主に情報提供による支援を行うことができた。
- ご相談から後援や広報協力などの協力・連携につなげることができた。
- 昨年度に朝日新聞社より相談を受けたことから創設された「かんきょう新聞」コンクルの「ESD活動支援センター賞」が今年度も継続した。

今後に向けて

- 平成30年度は、相談内容がより高度になるであろうことを見越して、より専門性が高い回答を行うことができるよう、相談員制度の創設を検討する。

催事を活用して情報発信

全国センターでは文部科学省、環境省のESD関連催事・後援している催事等を活用して情報発信をしています。以下はその例です。

【グリーンチャレンジデー】

「GTFグリーンチャレンジデー 2017 in 新宿御苑」では、環境省環境教育推進室のブースで、ESD活動支援センターはポスター展示など、ESDマスコットキャラクターの「はぐくん」とともに、来場者へのESDの周知・普及を行いました。同ブースでは、ワークショップ「SDGsの森」やESDの優良事例の展示が行われました。(ブース運営:NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J))



ブース前面に設置したタベストリー



ワークショップ「SDGsの森」でSDGsのロゴシールを貼る来場者

<写真提供:ESD-J>

【GTFグリーンチャレンジデー 2017 in 新宿御苑】開催概要

名称	GTFグリーンチャレンジデー 2017 in 新宿御苑
日程	平成29年9月30日(土)～10月1日(日)
会場	新宿御苑
主催	GTFグレーター トウキョウ フェスティバル実行委員会
共催	環境省、国連生物多様性の10年日本委員会、新宿区、TOKYO FM、TBSテレビ



ユネスコスクール全国大会で行われた第8回ESD大賞表彰式



ESD活動支援センター展示ブース

【第9回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会】

第9回ユネスコスクール全国大会が、12月2日(土)に「ユネスコスクールのまち」福岡県大牟田市で行われ、全国各地からユネスコスクール関係者、ESD関係者など、900名を超える参加者がありました。ESD活動支援センターはこの催事を後援し、ESD活動支援センターの展示コーナーを開設して、参加者にESD推進ネットワークと全国センター・地方センターについての紹介を行いました。

【第9回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会】開催概要

名称	第9回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会 我が国を最先端の持続可能な社会に — ESDのゴールを目指して —
日程	平成29年12月2日(土)
会場	大牟田文化会館
主催	文部科学省 日本ユネスコ国内委員会
共催	NPO法人日本持続発展教育(ESD)推進フォーラム、 福岡県大牟田市、大牟田市教育委員会、 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

成果

- ESDを意識している対象、そうでない対象に対して、アプローチを変えて多くの人に発信することができた。

今後に向けて

- ESD関連省庁のSDGs・ESD関連催事をより幅広く活用できるよう情報収集、調整に努める。

後援事業・協力事業、メディア掲載

後援事業・協力事業

全国センター・地方センターは、ESD関係組織・団体の催事を後援することで、ESDおよびESD活動支援センターの認知度を高める機会とするとともに、それら催事に関する広報に協力しています。

第73回日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台



開催日 平成29年7月15日(土)～16日(日)
会場 仙台国際センター
主催者 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、宮城県ユネスコ連絡協議会、公益社団法人仙台ユネスコ協会

ESD活動支援センター 後援

千葉大学ESD研究会「持続可能な社会の構築に向けて」



開催日 平成29年8月21日(月)
会場 千葉大学教育学部
主催者 千葉大学教育学部

ESD活動支援センター 後援

Educators' Summit for SDGs 4.7



開催日 平成29年10月28日(土)
会場 聖心女子大学聖心グローバルプラザ
主催者 Educators' Summit for SDGs 4.7実行委員会

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

清里ミーティング2017



開催日 平成29年11月18日(土)～20日(月)
会場 公益財団法人キープ協会清泉寮
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
主催者 公益社団法人日本環境教育フォーラム

ESD活動支援センター 後援

第4回ユネスコスクール・ESDパスポート研修会 未来につなぐ「生きる力」



開催日 平成29年10月31日(火)
会場 新宿ユネスコ協会
主催者 新宿ユネスコ協会

ESD活動支援センター 後援

第9回ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会



開催日 平成29年12月2日(土)
会場 大牟田文化会館
主催者 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

ESDの動向とユネスコ協会の取組み



開催日 平成29年7月22日(土)
会場 新宿区立男女共同参画推進センター
主催者 東京都ユネスコ連絡協議会ESD研究会

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

信州ESDコンソーシアム 2017年度第1回ESD研修会



開催日 平成29年8月27日(日)
会場 信州大学教育学部
主催者 信州ESDコンソーシアム

ESD活動支援センター 後援

SDGs 子どもワークショップ



開催日 平成29年11月3日(金)
会場 パシフィコ横浜
主催者 文部科学省
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

ESD活動支援センター 後援

日本環境教育フォーラムの設立25周年を機に 環境教育の未来を考えるシンポジウム



開催日 平成29年12月2日(土)
会場 立教大学太刀川記念館
主催者 公益社団法人日本環境教育フォーラム
立教大学ESD研究所

ESD活動支援センター 後援

インドネシア／日本 学びの交流カフェ ～持続可能な地域構築に向けたノンフォーマル教育の 役割について考えよう～



開催日 平成29年7月25日(火)
会場 日本出版会館
主催者 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

ESD活動支援センター 後援

平成29年度日本／ユネスコパートナーシップ事業 ESDユース・ウィーク (第4回ESD日本ユース・コンファレンス、日中韓大学生交流プログラム)



開催日 平成29年9月23日(土)～
平成29年9月26日(火)
会場 幕張国際研修センターなど
主催者 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
公益財団法人五井平和財団

ESD活動支援センター 後援

第9回「東西文化の融合」国際シンポジウム



開催日 平成29年11月5日(日)
会場 大東文化会館ホール
主催者 大東文化大学大学院外国語学研究所
日本語学文化専攻

ESD活動支援センター 後援

第49回 全国小中学校環境教育研究大会(静岡大会)



開催日 平成29年12月8日(金)
会場 静岡県菊川市立菊川西中学校
主催者 全国小中学校環境教育研究会

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

第35回開発教育全国研究集会



開催日 平成29年8月5日(土)～6日(日)
会場 JICA地球ひろば
主催者 第35回開発教育全国研究集会実行委員会
NPO法人開発教育協会(DEAR)

ESD活動支援センター 後援

平成29年度日本／ユネスコパートナーシップ事業 第1回「ESD推進の手引」を活用した研修会 - 長野県 -



開催日 平成29年10月1日(日)
会場 伊那市役所本庁舎
主催者 文部科学省
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

ESD活動支援センター 後援

タイムカプセル・プロジェクト in 東山総合公園



開催日 平成29年11月11日(土)
会場 名古屋市東山動植物園
主催者 名古屋市東山動植物園
国際自然保護連合日本委員会

ESD活動支援センター 後援

とくしま生物多様性活動推進フォーラム 生物多様性・生態系の保全と企業価値 —SDGs・ESG投資・グリーンインフラ—



開催日 平成29年12月11日(月)
会場 とくぎんトモニプラザ
主催者 NPO法人徳島保全生物学研究会

ESD活動支援センター、四国地方ESD活動支援センター 後援

北信越ユネスコスクール交流会 2017 in 金沢



開催日 平成29年8月6日(日)
会場 金沢勤労者プラザ
主催者 金沢大学国際基幹教育院

ESD活動支援センター 後援

日本ジオパークネットワーク活動開始10周年記念 第8回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大湯大会



開催日 平成29年10月25日(水)～27日(金)
会場 男鹿市民文化会館
ホテルサンルール大湯、男鹿温泉郷
主催者 第8回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大湯大会
実行委員会、一般財団法人自治総合センター

ESD活動支援センター 後援 職員派遣

国際シンポジウム「ESDによる地域創生の可能性と今後の展開 -Prospects and ongoing challenges of regional revitalization based on ESD-」



開催日 平成29年11月11日(土)～12日(日)
会場 立教大学太刀川記念館
主催者 立教大学ESD研究所、立教大学ESD
地域創生研究センター設置準備室ほか

ESD活動支援センター 後援

未来に希望を広げよう!公害資料館の“わ” 第5回公害資料館連携フォーラム in 大阪



開催日 平成29年12月15日(金)～17日(日)
会場 大阪市立大学
主催者 第5回公害資料館連携フォーラム
in 大阪実行委員会

ESD活動支援センター 後援

平成29年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
「ユネスコスクール玉川研修会:ESDと地球市民教育」



開催日 平成29年12月16日(土)
会場 玉川大学
主催者 玉川大学教育学部

ESD活動支援センター 後援

平成29年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
持続可能な開発のための教育について考える



開催日 平成30年1月25日(木)
会場 福山市立福山中・高等学校
主催者 文部科学省
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

ESD活動支援センター、中国地方ESD活動支援センター 後援

信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会



開催日 平成30年2月3日(土)
会場 信州大学教育学部
主催者 信州ESDコンソーシアム

ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター 後援
職員派遣

全国ボランティアコーディネーター研究集会2018



開催日 平成30年3月3日(土)～4日(日)
会場 JA長野県ビル、もんぜんぶら座、
長野市生涯学習センター
主催者 全国ボランティアコーディネーター研究集会2018
信州 実行委員会、認定NPO法人日本ボランティア
コーディネーター協会

ESD活動支援センター 後援

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth
高校生のための国際交流・国際協力EXPO 2017



開催日 平成29年12月23日(土)
会場 大阪YMCA
主催者 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生
のための国際交流・国際協力EXPO2017運営委員会、
NPO法人関西NGO協議会

ESD活動支援センター 後援

新宿の環境学習応援団 第17回「まちの先生見本市!」



開催日 平成30年1月27日(土)
会場 新宿区立戸塚第三小学校
主催者 NPO法人新宿環境活動ネット、新宿区

ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター 後援

日本ESD学会 第1回近畿地方研究会



開催日 平成30年2月12日(月)
会場 奈良教育大学
主催者 日本ESD学会、奈良教育大学
日本ESD学会近畿地方研究会実行委員会

ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センター 後援

大学SDGs ACTION! AWARDS



開催日 平成30年3月10日(土)
会場 有楽町朝日ホール
主催者 株式会社朝日新聞社

ESD活動支援センター 後援

平成29年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
持続可能な開発のための教育について考える



開催日 平成29年12月26日(火)
会場 ウィンクあいち
主催者 文部科学省
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター 後援

みんなで学ぼう!エシカルクッキング!



開催日 平成30年1月27日(土)
会場 とくぎんモニプラザ
主催者 鳴門教育大学エシカル消費への転換をうながす
地域協働プログラムの開発実行委員会

ESD活動支援センター、四国地方ESD活動支援センター 後援

環境交流フォーラム～東日本大震災津波からの自然環境に係る復興等～



開催日 平成30年2月14日(水)
会場 奥州市役所江刺総合支所
主催者 岩手県南広域振興局保健福祉環境部

ESD活動支援センター、東北地方ESD活動支援センター 後援

公開シンポジウム「新学習指導要領とジオパーク」



開催日 平成30年3月22日(木)
会場 東京学芸大学
主催者 日本地理学会ジオパーク対応委員会

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

おおむた・みらい・ESD推進事業
大牟田市「ユネスコスクール子どもサミット」



開催日 平成30年1月13日(土)
会場 大牟田文化会館
主催者 大牟田市教育委員会

九州地方ESD活動支援センター 後援

ESD推進フォーラム・高校生活動発表会



開催日 平成30年1月28日(日)
会場 香川県国際交流協会
主催者 四国地方ESD活動支援センター
四国環境パートナーシップオフィス

ESD活動支援センター 後援

CSRセミナー in 仙台



開催日 平成30年2月16日(金)
会場 GMビル
主催者 オフィスBeni

ESD活動支援センター、東北地方ESD活動支援センター 後援

ESD成蹊フォーラム2018



開催日 平成30年4月1日(日)
会場 成蹊大学
主催者 学校法人成蹊学園

ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター 後援

平成29年度「地域とともにある学校づくり」推進協議会



開催日 平成30年1月19日(金)
会場 大分県教育センター
主催者 大分県教育委員会、福岡教育大学

九州地方ESD活動支援センター 後援

第29回全国公民館セミナー



開催日 平成30年1月31日(水)～2月2日(金)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主催者 公益社団法人全国公民館連合会

ESD活動支援センター 後援

岐阜県ユネスコ協会「第1回ESDパスポート体験発表会」



開催日 平成30年2月24日(土)
会場 岐阜市文化センター
主催者 岐阜県ユネスコ協会

ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター 後援

世界一大きな授業2018



開催日 平成30年4月14日(土)～6月30日(土)
会場 全国各地の小・中学校・高校・大学約800校、
議員会館
主催者 教育協力NGOネットワーク(JNNE)

ESD活動支援センター 後援

地域と世界をつなぐSDGs
～国際理解教育・開発教育・ESD等関係者のつながりと相互の学びを通じて～



開催日 平成30年1月21日(日)
会場 JICA地球ひろば及びJICA国内拠点
主催者 独立行政法人国際協力機構(JICA)JICA地球ひろば

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会



開催日 平成30年2月1日(木)～2日(金)
会場 箱根ジオパーク
主催者 箱根ジオパーク推進協議会、NPO法人日本ジオ
パークネットワーク、文部科学省

ESD活動支援センター 後援
職員派遣

「SDGsとESD」特別企画シンポジウム
～ESDの実践と研究の有機的連携にむけて～



開催日 平成30年3月3日(土)
会場 国連大学ウ・タント国際会議場
主催者 日本ESD学会、
国連大学サステイナビリティ高等研究所

ESD活動支援センター 後援

第74回日本ユネスコ運動全国大会 in 函館



開催日 平成30年7月7日(土)～8日(日)
会場 函館市芸術ホール、ホテル函館ロイヤル
主催者 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、
北海道ユネスコ連絡協議会、函館ユネスコ協会

ESD活動支援センター、北海道地方ESD活動支援センター 後援

2018年英語パフォーマンス甲子園



開催日 平成30年8月24日(金)
会場 DMG MORI やまと郡山城ホール
主催者 英語パフォーマンス甲子園実行委員会

ESD活動支援センター 後援

SDGsによる地域創生の可能性と私たちの役割



開催日 平成29年12月23日(土)
会場 広島国際会議場
主催者 中国地方ESD活動支援センター

ESD活動支援センター 協力
 職員派遣

ESD学びあいフォーラム～SDGsでつくる四国の未来～



開催日 平成29年7月1日(土)
会場 香川県社会福祉総合センター
主催者 四国環境パートナーシップオフィス、四国地方ESD活動支援センター

ESD活動支援センター 協力
 職員派遣

第3回全国ユース環境活動発表大会



開催日 平成30年2月3日(土)～4日(日)
会場 国連大学 ウ・タント国際会議場
主催者 全国ユース環境活動発表大会実行委員会

ESD活動支援センター 協力

メディア掲載

ESD活動支援センターおよびESD推進ネットワーク
 関連記事・情報が掲載されたマスメディア、
 関連団体の情報誌等の一覧です。

マスメディア

●教育新聞 平成29年4月27日(木)

「ESDを支える仕組みづくり ネットワークの
 構築を目指す本格稼働・ESD活動支援センター」
 発行：教育新聞社

●日刊工業新聞 第2部 平成29年7月31日(月)

「『持続可能』経営に
 学びあい人材育成／課題解決ビジネス拡大へ」
 発行：日刊工業新聞社

●朝日新聞(広告特集) 平成30年2月27日(火)

「地球教室 地球にやさしい未来を、みんなで。
 未来につながる環境教育を」
 発行：朝日新聞社

関連媒体

●地球にやさしい未来を、みんなで。 地球教室 応用・研究編 2017

発行：朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会

ESD関連団体の 機関紙

●信州ESD通信 No.9 平成29年12月10日(日)

発行：信州ESDコンソーシアム事務局



地球教室 応用・研究編 2017



朝日新聞社の「かんきょう新聞コンクール」に平成28年度より創設された
 「ESD活動支援センター賞」において、今年度は応募作1,184点の中から
 優秀賞1点、佳作3点を選考させていただきました。

【ロゴの紹介】

ESD活動支援センターのロゴマークでは、青色に「学び」、黄色に「活動」、森や自然を想
 起する緑色には「持続可能な社会」を象徴させました。

この三色を配し、「人びとの学びと活動によって持続可能な社会を生み出し、育てる」と
 というESDの考え方を表しています。また、ESDの文字を使って卵から雛が生まれる様子
 を表現。青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」も織り込んでいます。



【運営体制】

センター長	阿部 治
副センター長	鈴木 克徳
次長	柴尾 智子
スタッフ	児玉 実香※
スタッフ	渡辺 五月
スタッフ	金沢 信幸

シニアアドバイザー 村上 千里

※2017年12月に退職

・ESD活動支援センターは、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)が
 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)と共同で運営しています。

【アクセス】

【最寄駅】

- 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」
 B2出口から徒歩約10分
- JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線「渋谷駅」
 東口(宮益坂口)から徒歩約12分
- 都営バス(渋88系統)「青山学院前」停留所から徒歩約2分
- ★青山通りから国連大学とオーバルビル間の道に入り、東京ウィメンズ
 プラザの前のエスカレーターで地下1階までお越しください。



ESD活動支援センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5丁目53-67 コスモス青山 地下1階
 TEL:03-6427-9112 FAX:03-6427-9113 E-mail:contact@esdcenter.jp

印刷：株式会社サンエー印刷